

花粉症対策品種開発促進事業（継続）

【平成21年度予算額 17,088（20,124）千円】

事業のポイント

森林所有者等のニーズにも応えた新たな花粉症対策品種を開発するとともに、育苗期間の短縮による苗木の早期供給技術を開発します。

- ・ これまでに少花粉スギ品種等133（平成19年度末）の花粉症対策品種が開発されました。
- ・ 開発された品種は優れた形質を有していますが、開発品種数に地域的な偏りがみられます。
- ・ 森林所有者等の造林意欲の向上を図る観点から、森林所有者等の要望に応えたより林業的価値の高い地元の花粉症対策品種の開発を進める必要があります。
- ・ 花粉症対策品種を確実に大量に供給するには、挿し木等クローン技術による生産が不可欠です。

政策目標

花粉症対策品種の選択の幅を広げることにより、森林所有者等の花粉発生源対策に取り組む意欲を向上させます。

生産期間の短縮により、苗木供給の加速化を進めます。

< 内容 >

1．無花粉スギと精英樹の人工交配による新品種開発とその早期判定技術の開発

人工交配で得られた個体について、無花粉形質の有無を早期に判定する技術を開発します。

2．ポトムヒート処理と閉鎖型植物生産システムによる育苗技術の開発

花粉症対策品種の形質を確実に継承できる挿し木技術について、発根率を向上させ、効果的・効率的に行える新たな育苗技術を開発します。

< 委託先 >

民間団体

< 事業実施期間 >

平成20年度～24年度（5年間）

[担当課：林野庁研究・保全課]